

新聞購読に関する意識調査

藤井 路子・亘 英太郎・渡辺 邦博

Fujii Michiko, Watari Eitaro, Watanabe Kunihiro

1. はじめに

情報化社会と呼ばれる時代にあつて、日々私たちが接する若い学生に、デジタル化された情報を貪欲に吸収する一方、本や雑誌、新聞に代表される紙媒体の情報から急速に遠ざかる傾向が見受けられる。そこに大きな問題が存在するのではないかとの思いから、私たちは、新聞に対する学生の考え方についてアンケートを実施し、いく分なりとも、その実相や性質を探りたいと考えてきた。

以下では、複数の大学に通学する学生を対象に、新聞をはじめとするいくつかのニュースメディアに対するビヘイビアについて解析を行っている。最後の学生のビヘイビアについて、いっそう広く深い探索が必要ではないかと推測される諸相に進もうとしたが、確定的な結論に至るには、質問項目に対する工夫が必要だと思われる。

私たちは、一方でサンプル数の増加と、他方で学生の生活実態などにも拡張した、「調査」の実施の必要を感じている。

2. 方法

2011年4月～6月にかけて、奈良県と京都府にある4つの大学¹に通う学生、473人に対し、「ニュースメディア²としての新聞」をテーマに、無記名方式によるアンケート調査を行った。

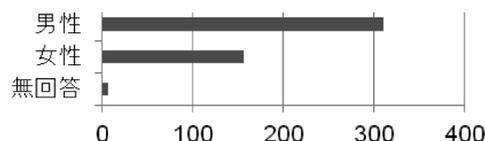
本調査では、ニュースメディアに対する大学生の意識を広く調査する目的から、学部や学年、国籍などの属性によって調査対象を区別していない。また多くの設問は、択一、もしくは複数選択式だが、新聞の将来像に関する設問のみ、自由に記述させる方法を採用している。

3. 結果

3.1 回答者属性

① 性別

	合計	構成比
男性	310	65.5%
女性	156	33.0%
無回答	7	1.5%
合計	473	-

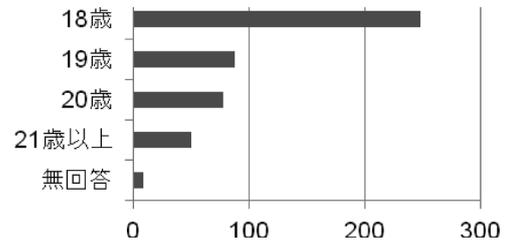


1 奈良県 3校、京都府 1校

2 本稿では「ニュースを得るためのツール」の意

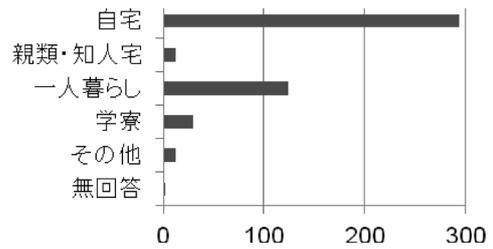
② 年齢

	合計	構成比
18歳	248	52.4%
19歳	88	18.6%
20歳	78	16.5%
21歳以上	50	10.6%
無回答	9	1.9%
合計	473	-

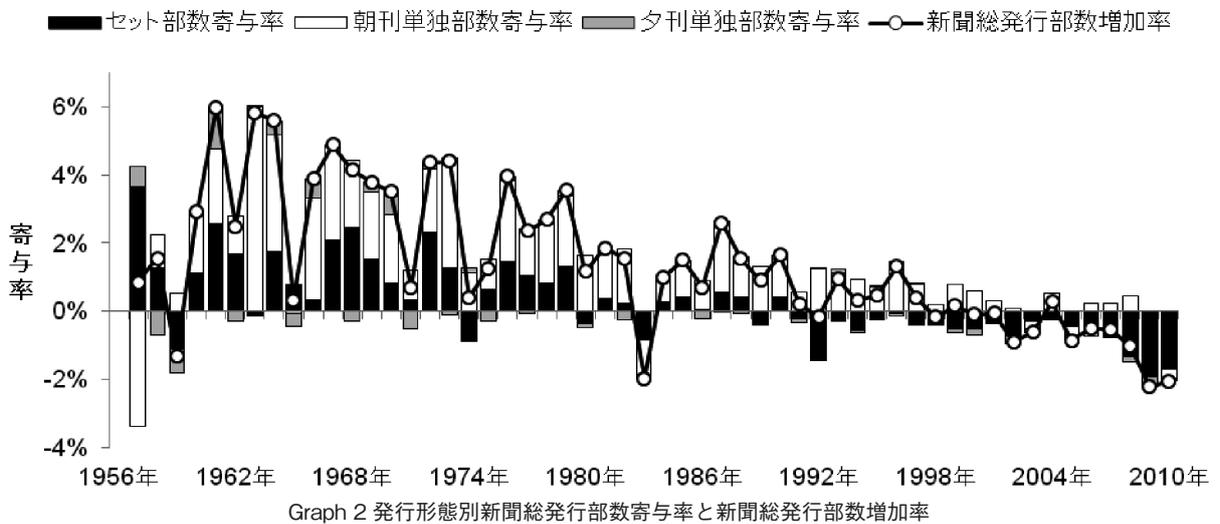
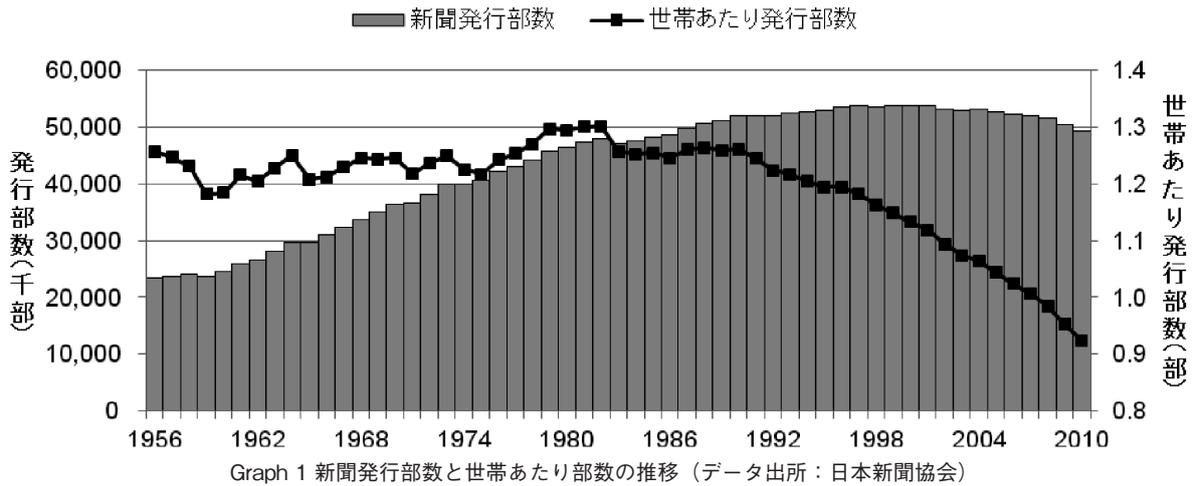


③ 住まいの形態

	合計	構成比
自宅	293	61.9%
親類・知人宅	12	2.5%
ひとり暮らし	124	26.2%
学生寮	30	6.3%
その他	12	2.5%
無回答	2	0.4%
合計	473	-



3.2 家庭における新聞の購読状況



Graph 1 は、1956 年から 2010 年に至る新聞発行部数と世帯あたり発行部数の推移を示したものである。

これによると、30 年以上にわたって 1.2～1.3 の間で推移してきた世帯あたり発行部数は、1990 年前後から減少傾向に転じ、2008 年に 1 を割り込んだ後も、落ち込み続けている。

一方、増加傾向にあった新聞発行部数も、1990 年代後半にピークを迎えた後、ゆっくりと減少しつつある。こうした動きは何によってもたらされたのか、発行形態別新聞総発行部数寄与率³の推移から見ていく。

Graph 2 は、1956 年から 2010 年に至る発行形態別新聞総発行部数寄与率と新聞総発行部数増加率の推移を表している。これによると、1990 年前後に始まったセット部数の減少が、徐々にそのスピードを加速させる一方、朝刊単独部数の伸びは、徐々にその勢いを弱め、2000 年頃にはほとんど伸びなくなった。その結果、新聞発行部数増加率はマイナスに転じ、そのマイナス幅も年々拡大する傾向にある。以上のことから、1990 年頃を境に、セット購読から朝刊のみの購読へ切り替える「購読スタイルの変化」が生じ、さらに 2000 年以降は、新聞購読そのものを取りやめる家庭が増加していると考えられる。

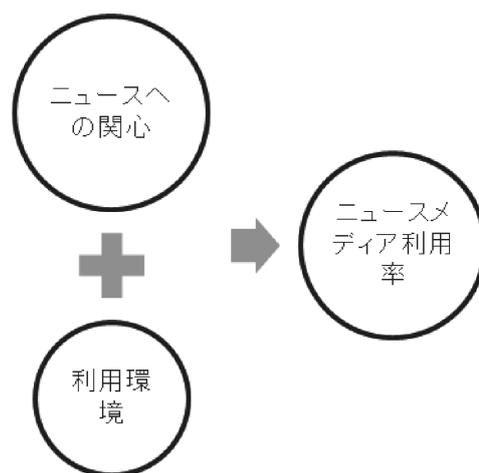
このように新聞を購読しない世帯が増加する中であって、大学生を持つ家庭の新聞購読率⁴はどの程度か、また家庭における新聞の購読・非購読が、学生による新聞の利用⁵やニュースに対する関心にどれくらい影響を与えるのかといったことについて、アンケート調査によって得られたデータを通して見ていく。

はじめに、自宅からの通学者(以下、自宅生)の内⁶、新聞を購読している家庭から通うのは 249 人であった。この内、新聞をニュースメディアとして利用しているのは 142 人(57%、新聞利用率)であった。ここから、大学生を持つ家庭の 81.1%～89.1%で新聞を購読しており(信頼率 95%)、そうした家庭で暮らす学生の 50.8%～63.1%は、ニュースメディアとしての新聞を利用していると推測される(信頼率 95%)。

新聞を購読している家庭から通う自宅生(以下、自宅生_A)の新聞利用率が 5 割から 6 割程度という推計結果は、「新聞をよく利用している」とは言い難い数値である。しかしながら、新聞を購読していない家庭から通う自宅生(以下、自宅生_B)の新聞利用率は 24%と有意に低く(有意水準 1%)、家庭で新聞を購読していることと、学生が新聞を利用していることの間には関連性が全くないと言えない。ただし、必ずしもそれだけでは利用につながらない点にも留意すべきである。

ところで、あるニュースメディアの利用率は、コストを含め、それを利用しやすい環境、あるいは状態にあるかということに加え、ニュース、ひいては社会に対する学生の関心に大きく依存すると考えられる(右図)。自宅生_Bの関心が、自宅生_Aに比較して著しく低い場合、例えば、家庭で新聞を購読するようになったとしても、利用率が大きく改善するとは考えにくい。

そこで、家庭における新聞の購読・非購読が、学生による新聞の利用に影響を及ぼすか否か結論付ける前に、他のニュースメディア利用率を比較することによって、両者のニュースへの関心に差異が



3 発行形態別部数の新聞発行部数に対する寄与率。日本新聞協会のデータから算出。

4 大学生を持つ家庭に占める、新聞を定期購読している家庭の割合。またここでいう「購読」は、定期購読のみを対象としている。

5 本稿における「利用」とは、ニュースメディアとしての利用を意味する。

6 回答者には留学生が少なからず含まれる。今回行ったアンケート調査票には国籍を尋ねる設問が含まれていない。そこで留学生の回答による影響を避けるため、ここでは自宅生のみを調査対象としている。

存在するか見ていく。

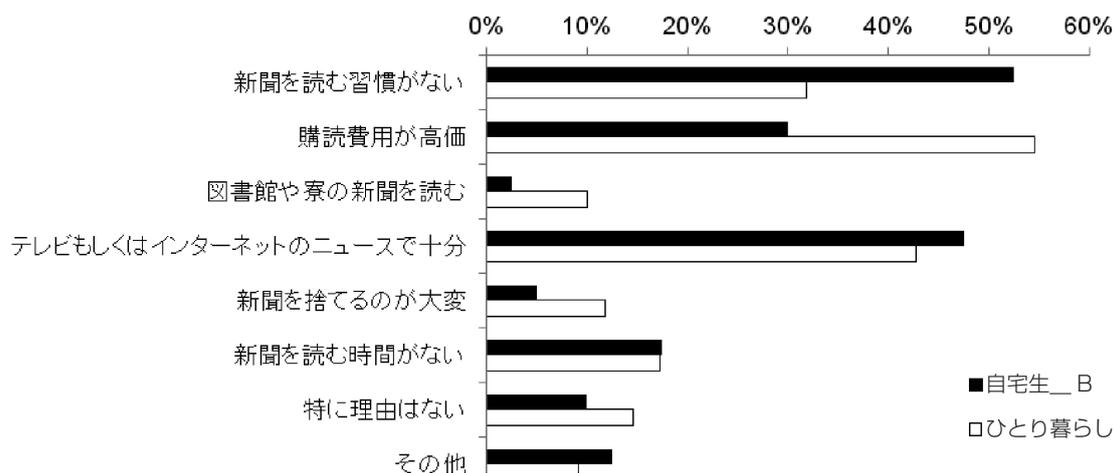
表1は、aからdで示す4つのメディアについて、「自宅生_A」と「自宅生_B」の利用率を示したものであり、両者のメディア利用率に差異が認められない場合を「-」、5%有意水準で認められる場合を「※」、1%有意水準で認められる場合を「※※」によって表している⁷。これによると、新聞を除くメディアの利用率に有意な差異があるとは言えず、自宅生_Bの新聞利用率が相対的に低いのは、自宅_Aに比較して、新聞を利用しやすい家庭環境にないためであって、ニュースへの関心に差異があるわけではないと言える。彼らは、機能上、新聞と代替関係にある他のメディアを通じてニュース、ひいては社会に対する関心を満たしているのもであって、きちんと新聞を読んでいるかという事実のみから当該学生の社会に対する関心を測ることはできない。

表1 居住属性別ニュースメディア利用率⁸

学生グループ	a. テレビ	b. ラジオ	c. インターネット	d. 新聞
自宅生_A	96.0%	6.4%	69.5%	57.0%
自宅生_B	92.9%	4.8%	69.0%	2.4%
グループ間の差異	-	-	-	※※

ところで本調査では、新聞を利用しない理由を直接問う設問は用意されていない。だが、自らの経済的負担によることなく新聞を利用できる居住環境にないという意味で環境要因が等しい「自宅生_B」と、ひとり暮らしの学生（以下、「ひとり暮らし」）の「新聞を購読しない理由」を見ることによって、間接的にそれを推測することができる。

アンケートでは、主だった理由の中から該当するものを複数選択させる方法を採用した。Graph 3は、自宅生_Bとひとり暮らしのそれぞれについて、当該項目を選択した人の占める割合を示している。これによると、両グループともに「新聞を読む習慣がない」「購読費用が高価」「テレビもしくはインターネットの情報で十分」を選んだ人の割合が多く、習慣性の欠如、高価な購読費用、代替的ニュースメディアの存在が新聞離れを生み出す大きな要因となっていると推測できる。



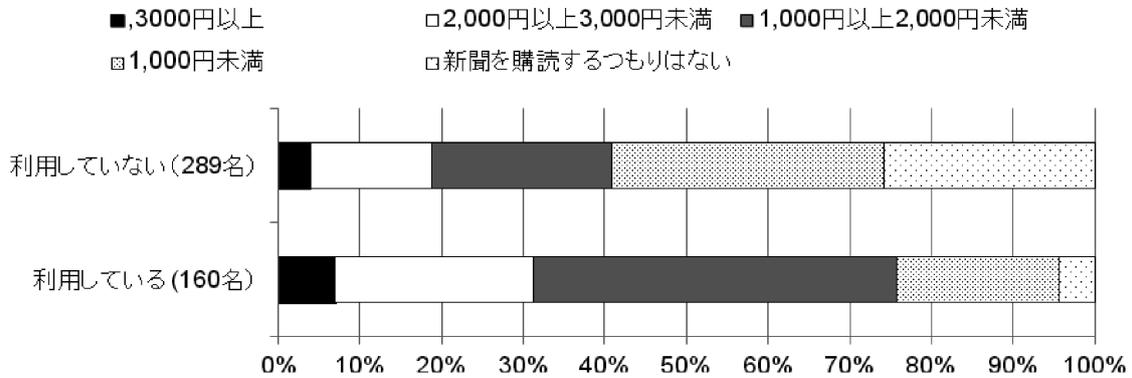
Graph 3 新聞を購読しない理由 (複数選択)

この内、費用に対する個々人の感じ方は、一様ではない。Graph 4は、ニュースメディアとして新聞を利用している学生とそうでない学生が、一か月あたりの購読費用として適切だと考える金額の分布を表したものである。こ

7 χ^2 検定およびフィッシャーの正確確率検定による。

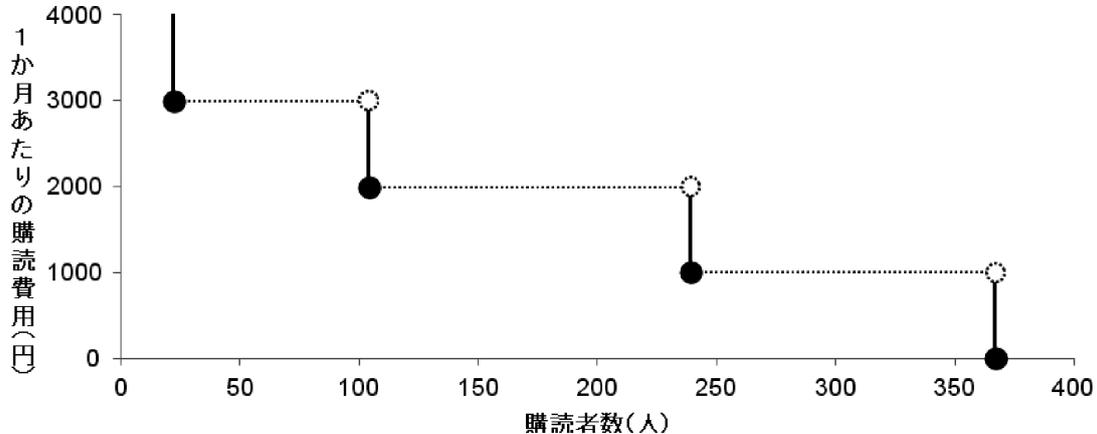
8 利用率の算出においては、無回答を除いている。

の値を、それぞれの学生が新聞というメディアに対して抱く評価の指標ととらえるならば、明らかに、新聞を利用していないグループの方が、新聞というメディアに対して低い評価を与えていることが読み取れる。さらに、現在の平均的な定期購読費用を適切だと考えているのはせいぜい7%⁹ほどで、少なくとも15%¹⁰の学生は新聞を購読する意思を持たない。



Graph 4 適切だと考える1か月あたり新聞購読費用

上記の結果から導き出される全体の需要曲線を示したのが Graph 5 である。現在の平均的な定期購読費用では、ほとんど需要が見込めないこと、千円から二千円で5割、千円未満で8割の学生が購読してもよいと考えていることが見て取れる。残念ながら本調査では、情報に対する相場観、および、その形成に関して踏み込んだ調査を行っていないが、代替の関係にあるとみられるニュースメディアの情報利用料は、それを検証する上において、重要な要素だと予想される。これについては今後の検討課題としたい。



Graph 5 新聞需要曲線 (全学生対象)

次に表2は、新聞、および、新聞と代替関係にあるとみられるテレビ、インターネットの利用率を示したものである。一人暮らしの学生は、自宅生に比べて経済的制約が大きく、新聞を購読していない学生はもちろん、テレビやパソコンを所有していない学生も少なくない。こうしたことが原因となって、各メディアの利用率に差異を生じることは十分に考えられることから、それぞれの利用率を自宅生とひとり暮らしの学生に分けて示すとともに、両者の間で利用率に差異が認められるか検定¹¹を行った結果を示している。

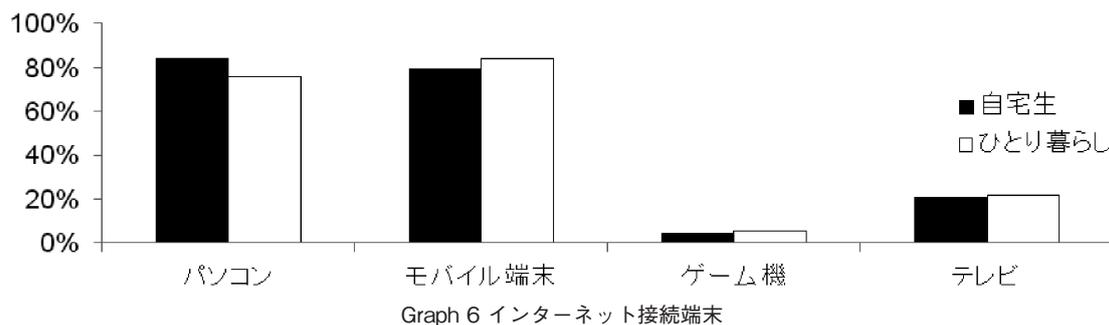
9 上側信頼限界 7.3%、下側信頼限界 3.3%、信頼率 95%、全学生対象

10 上側信頼限界 22.1%、下側信頼限界 15%、信頼率 95%、全学生対象

表 2 居住属性別ニュースメディア利用率

	テレビ	インターネット	(参考)新聞
自宅生	95.6%	69.3%	51.2%
ひとり暮らし	82.3%	72.6%	7.3%
グループ間の差異 ¹²	※※	—	※※

表 2 によると、テレビの利用率には両者の間で差異が認められるものの、インターネットの利用率にそれは認められない¹³。こうした違いが生じた理由は何か、インターネットの利用環境を通して詳細に見ていく。



Graph 6 は、インターネットに接続する際に使用する端末について調査¹⁴を行ったものである。自宅生、ひとり暮らしの学生ともに最も多いのがパソコンとモバイル端末である。

さらに、ニュースメディアとしてインターネットを利用している学生グループ（グループ A）と、利用していない学生グループ（グループ B）に分け、パソコンとモバイル端末の利用状況を居住属性別にクロス集計したのが表 3 と表 4 である。これによると、グループ A のパソコン、および、モバイル端末の利用状況に、居住属性に基づく有意な差異は認められない¹⁵。また、ニュースメディアとしてインターネットを利用する学生の 64.5%～74.9%は、パソコンとモバイル端末の両方を使ってインターネットにアクセスしていると推測される。

表 3 インターネット接続端末（グループ A）

自宅生		モバイル端末			ひとり暮らし		モバイル端末		
		利用	非利用	計			利用	非利用	計
パソコン	利用	68.0%	19.2%	87.2%	パソコン	利用	74.4%	10.0%	84.4%
	非利用	12.3%	0.5%	87.2%		非利用	12.2%	3.3%	15.6%
	計	80.3%	19.7%	100.0%		計	86.7%	13.3%	100.0%

一方、表 4 は、グループ B のインターネット接続端末使用状況を表したものである。パソコンとモバイル端末の利用状況に、居住属性に基づく差異がないとは言えないが、少なくとも、モバイル端末の利用率に、居住属性に基づく差異は認められない。

11 χ^2 検定およびフィッシャーの正確確率検定による。差異の有無に関する表記方法は表 1 と同様。

12 χ^2 検定による。差異の有無に関する表記方法は表 1 と同様。

13 いずれも有意水準 1%

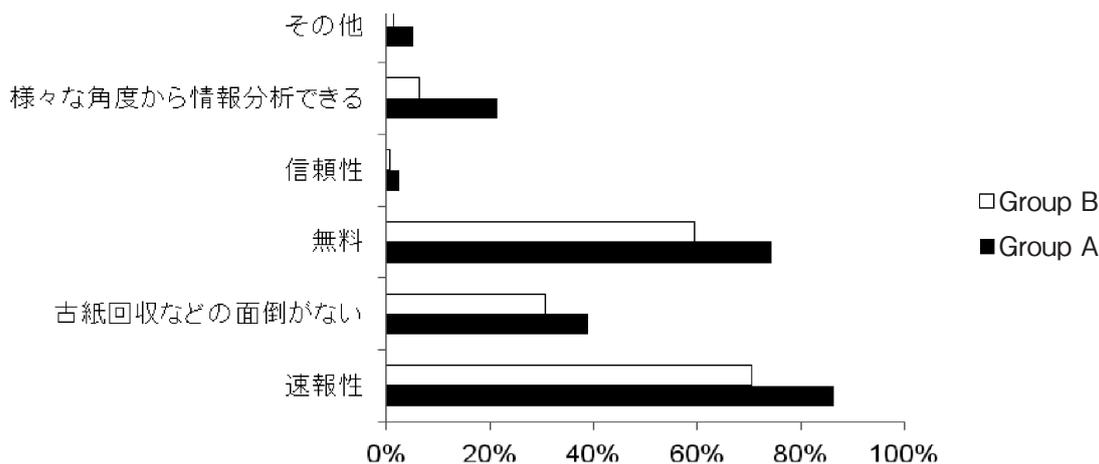
14 複数選択方式

15 いずれも有意水準 5%

表4 インターネット接続端末（グループB）

自宅生		モバイル端末			ひとり暮らし 34名		モバイル端末		
		利用	非利用	計			利用	非利用	計
パソコン	利用	60.0%	17.8%	77.8%	パソコン	利用	35.3%	17.6%	52.9%
	非利用	18.9%	3.3%	22.2%		非利用	41.2%	5.9%	47.1%
	計	78.9%	21.1%	100.0%		計	76.5%	23.5%	100.0%

これまで述べてきたように、メディアの利用には様々なコストが必要となる。自宅生であるか、ひとり暮らしであるかによって生じる様々な差異の中で、学生の消費行動に多大な影響力を持つと考えられる経済的制約によって、メディアを利用するための環境が整えられず、その利用が制限されることは多い。インターネットの場合も、利用に様々なコストがかかるという点では他のメディアと同様だが、それを利用するための環境、すなわちインターネット接続端末の使用状況に、居住属性に基づく大きな差異は認められない。つまり経済的制約の存在を圧してまで環境を整えているわけで、それはすなわち、大学生にとって、インターネットはそれだけ重要なツールである証左と解釈することもできる。



Graph 7 新聞と比較してインターネットのニュースサイトが優れている点

ただ、それだけ重視しながら、学生は必ずしもニュースサイトの情報を信頼しているわけでないように思われる。Graph 7によると、新聞と比較して評価しているのは、速報性と無料であるという点で、信頼性を評価しているのは数パーセントに過ぎない。

また様々な新聞社の関連記事を読んだり、論調の比較を行ったりすることが容易であることから、ひとつの事項を様々な視点から眺め、多角的な視点を養うことができるという点を評価する声がしばしば聞かれる。しかしながら今回の調査に限ってみれば、ニュースメディアとしてインターネットを利用している学生であっても、そうした面を評価するのは2割ほどに過ぎない。

だが、ニュースメディアの将来について尋ねる設問に対する回答の中には、インターネット上の情報に欠ける信頼性を補完する存在として新聞に期待する意見も見られた。信頼性より速報性や費用を重視する一方、そうした流れに疑問を持っている様子が見受けられる。この点に関しては、今後、より深い検証を行っていきたいと考える。

4. おわりに

本調査を見る限り、少なくとも大学生に関しては、ニュースメディアとしての新聞の時代は終わりつつあるように読み取れる。そして、大学生にとって重要なニュースメディアは新聞に代わってインターネットであるという、一般に言われてきた傾向も裏付けられた。この流れは、大学生に限らずいずれ社会全体のものになるだろうし、既になりつつあるとも言える。

ただし、本文中にもある通り、新聞への接触が少ないからといって大学生の社会への関心やニュースへの欲求が低下したとは解釈できない。なぜなら、本調査からは、別のニュースツールを使ってニュースにアクセスしている大学生像が浮かび上がったからである。

新聞離れは購読費など経済的な要因も大きいですが、それ以外にどのような要因があるのかについても考える必要がある。例えば、大学生はニュースメディアとしてどんな優位性をインターネットに認めているのか、新聞を利用するメリットへの認識はあるのか、などが今後の研究課題である。

5. 参考資料1－調査票

学生の新聞に対する考えに関するアンケート調査

情報化の進展によって、新聞そのもののあり方も大きな曲がり角を迎えています。そうした現状を踏まえ、現在、諸君が「新聞」についてどう考えているかについてアンケート調査を行うことにしました。調査結果は、今後の講義に様々な形で活かしてゆく予定です。なお、この調査によって知りえた事実は教育・研究以外の目的に使用することはありません。その点を理解した上で、回答してください。

以下、特に指示がない限り、Q1 から Q15 まで順に回答してください。

Q 1. 現在のあなたの住まいについて、当てはまるものを 1 つ選んでください

1. 自宅
2. 親類・知人宅
3. ひとり暮らし → Q4 へ進む
4. 学寮 → Q4 へ進む
5. その他() → Q4 へ進む

「自宅」「親類・知人宅」に居住する人にお尋ねします

Q 2. 現在のあなたの住まいでは、新聞を定期購読していますか？

1. 定期購読している
2. 定期購読していない → Q4.へ進む

Q 3. 現在のあなたの住まいで定期購読している新聞名をすべて選択してください。(複数回答)

1. 日本経済新聞
2. 朝日新聞
3. 毎日新聞
4. 読売新聞
5. 産経新聞
6. 地方紙() ※ 「奈良新聞」「奈良日日新聞」「神戸新聞」など
7. スポーツ紙() ※ 「日刊スポーツ」「スポーツニッポン」など
8. 産業経済紙() ※ 「フジサンケイビジネスアイ」「日経 MJ」など
9. その他() ※ 「天理時報」「しんぶん赤旗」「日本農業新聞」など

新聞を購読していない人にお尋ねします

Q 8. 新聞を購読しない理由として当てはまるものをすべて選択してください

1. 新聞を読む習慣がないから
2. 定期購読費用が高いから
3. 図書館や寮で購入している新聞を読むから
4. コンビニや売店で購入するから
5. テレビのニュースで十分だから
6. インターネットの情報で十分だから
7. 新聞を捨てるのが大変だから
8. 新聞を読む時間がないから
9. 特に理由はない
10. その他()

すべての人にお尋ねします

Q 9. あなたが新聞購読料として支払ってもよいと考える 1 か月あたりの金額はどれくらいですか。

1. 1,000 円未満
2. 1,000 円以上 2000 円未満
3. 2,000 円以上 3,000 円未満
4. 3,000 円以上 4,000 円未満
5. 4,000 円以上
6. 新聞を購読するつもりはない

Q 10. あなたが普段、インターネットのウェブサイトを見るのに利用している端末をすべて選択してください

1. パソコン
2. モバイル端末(携帯電話・PHS・携帯情報端末)
3. ゲーム機
4. テレビ

Q 11. あなたが利用しているニュースサイトをすべて選択してください。

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1. asahi.com (朝日新聞) | 8. Yahoo! ニュース |
| 2. 47NEWS (共同通信) | 9. @nifty ニュース |
| 3. 時事ドットコム (時事通信) | 10. goo ニュース |
| 4. 日本経済新聞 | 11. google ニュース |
| 5. YOMIURI ONLINE (読売新聞) | 12. CNN.co.jp |
| 6. 毎日 jp (毎日新聞) | 13. その他() |
| 7. MSN 産経ニュース | 14. 利用していない |

Q 12. 普段、あなたはどれくらいの頻度でニュースサイトを利用しますか

1. 一日に数回
2. 一日に1回
3. 週に2～3回
4. 週に1回
5. それ以下
6. ニュースサイトは利用しない

Q 13. 新聞と比較してインターネットのニュースサイトが優れていると感じる点をすべて選択してください。

1. 速報性
2. 古紙回収に出すなどの面倒がない
3. 無料で利用できる
4. 信頼性がある
5. 様々な角度から情報を分析できる
6. その他()

Q 14. 新聞を始めとするニュースメディアは、将来、どのような方向へ向かうと予想しますか。

Q 15. 最後に、あなた自身についてお尋ねします。

性別 男性 女性 (○で囲んでください)

年齢 _____ 歳

現住所 _____ 県・府

回答、お疲れ様でした。

参考)単純集計結果

Q1 自宅 親類知人宅 ひとり暮らし 学寮 その他 無回答	293 12 124 30 12 2	Q2 定期購読している 定期購読していない 無回答	256 46 3	Q3 日本経済新聞 朝日新聞 毎日新聞 読売新聞 産経新聞	21 95 40 68 43	18 9 1 1 9
Q4 テレビ ラジオ 新聞 インターネット その他 無回答	429 27 166 330 35 5	Q5 定期購読 ほぼ毎日購読 時々、購読 購読していない 無回答	147 3 22 298 3	Q6 日本経済新聞 朝日新聞 毎日新聞 読売新聞 産経新聞	16 61 27 44 26	14 9 1 8 5
Q7 読みやすい 読み慣れている 内容の充実 地元情報の充実 勧誘された	27 45 17 8 9	Q8 新聞社の主張に賛同 新聞社への信頼感 昔から購読している 特に理由はない その他 無回答	0 9 73 39 19 7	Q8 新聞を読む習慣がない 購読費用が高価 図書館や寮の新聞を読む コンビニや売店で購入する テレビのニュースで十分	143 97 19 0 107	103 19 51 38 31 5
Q9 1,000円未満 1,000円以上2,000円未満 2,000円以上3,000円未満 3,000円以上4,000円未満 4,000円以上 新聞を購読するつもりはない 無回答	129 135 82 19 3 83 22	Q10 パソコン モバイル端末 ゲーム機 テレビ 無回答	387 381 23 103 7	Q11 asahi.com 47NEWS 時事ドットコム 日本経済新聞 YOMIURI ONLINE 毎日.jp MSN 産経ニュース Yahoo!ニュース @nifty ニュース	36 12 21 16 15 14 30 343 10	54 137 8 25 10 64 38 20
Q12 一日に数回 一日に一回 週に2~3回 週に1回 それ以下 ニュースサイトは利用しない 無回答	146 112 100 27 44 33 11	Q13 速報性 古紙回収などの面倒がない 無料 信頼性 様々な角度から情報分析できる その他 無回答	386 172 330 9 80 19 12			